

令和元年度 第3回 浦安市子ども・子育て会議議事録

1. 開催日時 令和元年10月29日(火) 18:00~20:10
2. 開催場所 庁舎4階S2、3、4会議室
3. 出席者
(委員) 吉田正幸副会長、佐藤委員、武田委員、池島委員、辻野委員、加納委員、大島委員、早野委員、岡本委員、清水頼子委員、西塚委員、吉田恵美子委員、菅野委員、清水ゆり子委員
(事務局) 健康こども部 岡部部長、大塚次長
こども課 村田課長、鈴木課長補佐、安永、水島
保育幼稚園課 三代川課長、宇田川課長補佐、布施係長、杉本係長、多田係長、山畠
青少年課 平林課長、小泉課長補佐、石井係長
母子保健課 高柳課長、早川課長補佐
こども家庭支援センター 熊川所長、八田副主幹
東野児童センター 斉藤所長
こども発達センター 梅澤所長
4. 議事
 - 1) 浦安市子ども・子育て支援総合計画の骨子案について・・・資料1
 - 2) 認可保育所等の新規開設について・・・資料2
 - 3) その他について

会議経過

1. 開会

副会長： 子ども・子育て支援新制度について講義

2. 議事1)：浦安市子ども・子育て支援総合計画の骨子案について

事務局： 資料1(まず、第1～3章部分)に基づいて説明

副会長： ただいま第1章から第3章まで御説明いただきました。これについて御質問あるいは御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員： 8ページの(2)、(3)のところで、平成22年からの動向について書かれているが、2011年から2012年の間にかけて、大きく下がっているように、グラフでは見える。震災のことについても触れられているが、平成22年と平成29年を単純に比較するより、下がった部分を注視すべきと思うが、いかがでしょうか。

副会長： ここでは時系列に並べたデータについて記載しているので、そのデータをどう読むかは受け取り側の問題かもしれないが、事務局として、コメントがあればお願いします。

こども課： 再度検討させていただくが、転出者より転入者の方が多いという特徴がある。しかし、震災のときにそれが逆転したという形態になっているので、そこを記載させていただいている。

- 委員： 説明、ありがとうございます。
4人お子さんがいらっしゃる知り合いも多いので、出生数が他の市に比べて少ないというのが、私にとっては新しい情報だったので、驚いた。
- 委員： 出生の動向では、子どもの数としては、平成21年ぐらいをピークに減り続けている。震災が1つのきっかけだと思われるが、その前から減少傾向ではあったので、落ち込み数として大きくなっているということだと思う。
- 副会長： 2014年以降、全体の人口は増加傾向の中で、出生数があまり増えていなく、転入者が転出者より多いとすれば、子育て世帯があまり入ってきていないという読み取りができるかもしれない。そうだとすれば、子育て世帯に流入してもらうために、浦安は子育て家庭にもっと目を向けていくということが課題かもしれない。
- 委員： まず1点目として、満足度についてみたときに、転入の方とそうでない方の差がないのかが知りたい。それによって、必要な配慮やできる配慮が変わってくるのではないと思う。
それから、M字型カーブの部分で、台形に近い形状になっていますと書かれているが、これは希望が叶って台形型に近くなっているのか、そうではなくて、未婚の女性で就業している方の割合が多く台形のような形に近づいているのかが、知りたい。ここは、浦安市としてとても大事なことだと思うので、少し説明をいただけたらと思う。
- こども課： 1点目につきまして、基礎調査の結果として、転入者とそれ以外の方で満足度に違いは見られなかった。
続いて、M字カーブについては、説明不十分な部分もあったので、検討させていただく。
- 副会長： 未婚率の年次推移を一緒に見られると、今のご意見の部分が見えてくるのではないかな。そのデータが市の単位で取れるかどうかは難しいかもしれないが、一度、検討してみしてほしい。
- 委員： 18ページで、第1期の振り返りの部分に関連して、他の市町村や23区と比べて、浦安の進捗がどうだったのか気になったので教えていただきたい。浦安は、他と比べると目立って改善するところ等があったのかどうか、よかったのか、まあまあだったのか。
- こども課： 他の市町村も同様に計画策定中であり、他市の状況と比べるというのは、難しい。浦安の特徴を理解し、浦安に即した計画を作ることを、今は主軸に検討している段階である。
- 副会長： 私は、都内の品川区と千代田区と板橋区で、この会議の副会長をやっており、あきる野市で会議の座長をやっているため、東京の事情はある程度承知しているが、浦安市の子育て支援は、首都圏というよりも、全国的に見ても、かなり頑張っているという部分が、浦安の大きな特徴と思う。そこにはやはり、大日向先生や柏女先生等の専門家が関わっておられることもあるだろう。
幼児教育あるいは保育についても、公立が多いという特徴の中で、しっかり認定こども園化を進めているというのも大きな特徴で、私の印象としては、浦安はかなり頑張っている。今後も引き続き頑張っていくためにこの場で、委員の皆様の知恵を

お借りしたいと考えている。

ここで一旦今日のメインである第4章、第5章の説明を事務局からいただきたいと思う。事務局、お願いします。

事務局： 資料1（第4・5章部分）に基づいて説明。

副会長： 今の御説明について、御質問あるいは御意見等をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

委員： 33ページの、保育士の労働環境を改善するために、賃金の上乗せや住宅の補助金等、とてもいい取り組みと思った。具体的にどれくらい上乗せされるのか、また、公立で働いている方へはもう十分であるのでそれ以上の対応はないということなのか、伺えれば。

保育幼稚園課： 保育士の処遇改善については、公立の保育士には行っていない。私立の保育士の上乗せに補助を行っている。

副会長： 所得として、基本的に全産業平均より保育所は低くなっているが、民間が特に低いので、処遇改善を行っている。しかし、公立の職員は公務員なので、もともと所得として高いから待遇改善をしなくていいのかという趣旨の御質問だったと思うが、回答としてはいかがか。

委員： 公立保育園は行政職であり、市の職員と同じ給与制度なので、年齢が上がっていけば、所得としても上がっていく。しかし基本的に民間の保育士は、全産業に比べて10万円程度低いなどの報道もされており、そういった足りない部分を補うために、月4万円程度の補助がある。詳細な金額は保育幼稚園課で回答をお願いします。

保育幼稚園課： 4万3000円から6万円の範囲で、経験年数によって金額を変えて支給している。

委員： 新採は4万円ぐらいで、長期に勤めている方は、高い補助ということのようである。また、家賃補助についても質問が出ていたと思うが、家賃補助についての詳細は保育幼稚園課で回答をお願いします。

保育幼稚園課： 家賃補助につきましては、1人月額8万2000円を限度に、補助を行っている。市内の8分の7事業所に補助を実施している。

委員： 各職員の自己負担は、2万円ぐらいだと思う。

委員： わかりました。ありがとうございました。

待遇改善で浦安の保育の質が上がって、いいモデルになったらいいと思う。

副会長： 自治体の待遇等で人手の奪い合いといったことがないわけではないが、今説明のあった8万2000円の家賃補助は、国の仕組みに基づいているので、他の東京の区部においても、やっているところは同じようなルールで実施していると思う。

委員： 3歳児保育のところ、今後、検討をしていくというお話があった。時期としてもうすぐ3年保育の抽選が行われて、その結果相談室で、入れた、入れなかったというお声をたくさん聞くことになる、心苦しい時期を迎える。みんなが希望する場所に入れたらいいと常日頃感じているが、本年度は、3歳児保育に関して何か検討していることはあるか、お聞きできれば。

保育幼稚園課： 今年度は、前年度と同等で、特に変更点はない。1号認定に関する部分としては、幼稚園、認定こども園の園児数というのは、減ってきているので、規模も含めた適正化の方針の中で考えていくということで、今後、検討させていただく。

- 委員： 公立幼稚園と私立幼稚園の授業料には差があり、園の方針等で選んでいる方もいるが、料金が安いということで選んでいる方もいると思う。教材費とか、園独自の費用はかかると思うが、10月でどこの園に行っても、みんな0円になるということで、今後保護者がどういうふうを選ぶのか、そういった部分は、来年になってみないとわからない。無償化によって、これまでの傾向とは変わってくると思うので、その動きを見ないと、市の方も動けないのではないかと。
- 副会長： その関連で質問なのだが、預かり保育も無償化されることで、幼稚園が預かり保育を行い2号認定相当の認定を受ける、新2号認定の需要が高まることが想定をされているが、既に在園されている幼稚園もしくは認定こども園の1号利用者で、新たに新2号を受けて、預かり保育の無償を利用されている方はいるのか。
- 保育幼稚園課： 今、まさに申請処理をしているところで、一定数、私立幼稚園の中でも、公立幼稚園の中でも、新2号の申請者はいる。ただ、その数字がどれくらいかというのは、これからとなるので回答は難しい。
- 副会長： 今年度は在園児の無償化のみであるが、来年4月以降新たに入園される方は、無償だという前提で施設選択等をされる。新2号も一定の利用が出て、保育所の2号認定の方が新2号に流れると、2号の保育の需要の見込みが減る可能性もある。無償化の影響が令和2年度からどう出るかは正確に読めないけれど、今年度の募集状況で、年度内には来年4月の状況が見込めるようになると思うので、中間年の令和4年度での中間見直しより先に、無償化の影響を織り込んだ調整が必要であると思う。今の時点では少し含みを持たせた計画策定という前提に、合意していただくといいと思うが、その辺はいかがか。
- 保育幼稚園課： 無償化の関係につきましては、正直、まだどういう影響があるかというのは、全く見えてきていない。令和2年度に向けての策定に、無償化の数字は反映できないと思うが、令和4年度の中間見直しの計画までには、ある程度の数字が見えてきていると思うので、ここでしっかりと数字に変更していくと、現在は考えているところ。
- 副会長： 確認であるが、令和2年度当初は間に合わないけれども、令和3年度には無償化を反映できると思うので、令和4年度の中間年を待たずに、実態に基づいて速やかに改善するというのが、本来のあり方だと思うが、その辺はどうなのか。
- こども課： 計画の見直し等につきましては、実績を県に報告する中で、状況を見ながら、対応することになると思われる。
- 副会長： 時間も押しているが、せっかくなので、公募委員の方に、御発言いただければと思います。
- 委員： 3歳児保育に関して1つ確認なのだが、年少で今度の4月から園に入る方に向けて、一斉に入園のお知らせというのは、今、届いているのか。私のときには、4歳児の保育のときに全員に一斉に届いたが、3歳の子には届かなかった。3歳児保育が広がってきているので、一斉にお知らせが届くといいと思うのですがいかがか。
- 保育幼稚園課： 来年3歳の方、保育園に入っていない方へのお知らせは今のところ特にしていない。ホームページ、広報等で周知はしているが、ダイレクトメール等は、やっていない。

- 委員： ぜひ送っていただきたいというのが現場の保護者の声。外国籍の方のデータもあったが、結婚されて国籍は日本になっていても日本語が得意でない女性の、保育等の情報が複雑過ぎてわからないという声をよく聞く。対象の方に情報をお送りして、わからなかったら、ここに電話をくださいといったメッセージが届いたらいいと思う。
- 副会長： 幼稚園の案内に限らずもっと幅広く、地域子ども・子育て支援の中で、外国籍の保護者やお子さんへのハードルを下げるような施策が必要かもしれない。重要な観点であり、厚労省からもそういった指示があるかもしれないので、事務局で御検討いただければ。
- 委員： 今、6歳の年長の男の子が、隣の部屋で保育をさせていただいている。私は今日初めて参加させていただいたのだが、たくさん取り組みをしてくださっていたのだと、改めてありがたく感じた。
質問事項の中で、保育室に空きのある園はあるかという問いがあったが、私が今通わせていただいている園には、保育室に2部屋空きがある。
また、園としても一生懸命やってくださっていて、現場の思いとしては、先生方の負担が大きく、先生が足りないという感じがする。先生たちはいつも本当に一生懸命やってくださっているので、どうしたらいいのかと思っている。
- 副会長： 今の御意見については、公立3年保育の拡充を含めた検討の部分で、次年度以降にしっかりと御検討いただきたいと思う。よろしくお願いします。
- 委員： フルタイムで働いている小学生の保護者の方が、学童に間に合いそうにないときに、30分だけでもお願いできるような人が近くにいたらいい、という話をされていた。ファミサポでは、突発的に、今日、今からお願いしたいときに、お願いできるような状況ではないということで、平日の働く保護者が突発的にお願いできるサポートとか、急に親が病気になってしまったときに、どこかにお願いできるようなところが整っていたら、教えていただきたい。
- 副会長： 緊急一時的な支援の、今の実情について、事務局いかがでしょうか。それでは岡本委員お願い致します。
- 委員： ファミサポについては、まずはマッチングのために、1回は登録していただく必要がある。いざというときの保険みたいなもので、まず登録をしておいてもらうことが大事だと思う。
また新しい計画書を見ると、土日の保育ができるようになるということで、それができれば、そちらにお願いできると思う。
- こども課： 平日の午後に対しては、ファミサポが比較的に利用しやすいと考えている。また、来年度中に国府台で実施しているショートステイを、市内東野地区で実施する。土日の預かりに関しては、トワイライトステイについても18歳未満まで対応が可能なので、来年度以降、対応を進めてさせていただく。
- 委員： 会議では、数やお金のお話もたくさん出ていたが、私の方からは教育の質に関して、お話をさせていただきたい。
保育の質のガイドラインを策定しており、今後は施設の質も確保していくというお話もありとてもいいと感じている。今後もガイドラインについてきちんと評価し、

浦安の子どもたちが質の高い教育・保育を受けて、未来を担う子どもたちがしっかり育っていけるような施策を立てていただきたいと、改めて思った。

また、私も他県の情報をいろいろと得ており、浦安は頑張っていると思っている。待機児童対策かもしれないが、全公立幼稚園・こども園で3歳児保育が開始されており、これからは子どもの教育・保育の質を語っていける浦安市であってほしいと思う。今、保育や教育の質のことが新聞等でもかなり語られるようになっており、喜ばしいこと。今後も皆さんで浦安の子どもたちのための話し合いができたらうれしいと思う。

入園募集が終わって3歳児の入園申し込みの数が出てきて、全園としてどれぐらいの数となるのかはわからないが、ここに入りたいという保護者の方たちの希望がかなうような施策を推進していただけたらありがたいと、現場の立場としても思っている。

副会長： 幼児教育・保育の無償化によって、これからは質の部分に日本中が向かうので、より質にも着目して、計画を推進していただければと思う。

それでは、最後に学識者として、佐藤委員ございますか。

委員： 1つ気にとめたいと思うこととして、児童虐待防止対策とか、支援を要する御家庭と子どもに対する支援についても、きちんと配慮し、対応されることを切に願う。43ページの任意記載事項のところにも挙がっており、次世代のほうにも児童虐待防止についての記載があるが、全体的な動向として、子育て世代包括支援センターや市区町村子ども家庭総合支援拠点のようなところでの、支援が必要な子どもと家庭に対しての、コーディネートも含めた相談援助について、近いうちに全国展開が目指されている。

支援が必要なのに、支援を必要だと言えない方たちへの子育て支援や保育・教育の機会についても、御配慮がいただけたらと思っている。

副会長： 虐待防止と、全ての子どもを権利主体として認めていこうという、児童福祉法の改正による法の趣旨に則って、充実を図っていただければと思う。

それでは、まだ議事が残っているので、次の「来年度の認可保育所等の新規開設施設について」という部分について御説明をいただきたいと思います。

議事2)： 認可保育所等の新規開設施設について

事務局： 資料2に基づいて説明。

副会長： 議論する内容ではないのですけれども、御質問等はございますでしょうか。特になければ承認いただいたということでよろしいでしょうか。

委員： 異議なし。

副会長： それでは、時間が押してしまいましたが、本日の会議は以上とさせていただきます。

3. その他

- ・ 本日の会議録について、事務局で作成した案を委員に郵送し、内容の確認をしていただく。
- ・ 本計画の策定に関しては、1月中旬からパブリックコメントを実施するので、今回は、12月下旬の開催となる見込み。

事前質問の回答一覧

事前質問	事務局説明
<p>基礎調査の回答者のうち、就学前児童・就学児童世帯の約9割が転入世帯とのこと、新たに転入してきた世帯(ほとんどが核家族)にどのような特徴(悩みや困りごと)があるかを分析しているか。</p>	<p>悩みや困りごとの内容に違いは見られず、各事業の認知度や利用経験にも違いはありませんでしたが、傾向としましては、地域の身近な相談先の充実を望まれる方が多い。</p>
<p>基礎調査の満足度評価の表頭につきまして、就学前、小学生、市民の3つの属性にわけて分析していますが、「市民」という属性はどのような方が回答されているか。また、「市民」に満足度をたずねた経緯や目的は。</p>	<p>「市民」につきましては、18～65歳までの方2,000人を無作為抽出いたしました。満足度調査につきましては、平成25年第1期計画調査において調査していることから比較検討のため調査したものです。</p>
<p>利用者支援事業は、量の見込み、確保方策とも箇所数しか記載されていませんがなぜか。また、設置箇所数に対してどの程度(産前・産後に)ケアプランを作成したかの実績はどうなのか。</p>	<p>箇所数の記載にしているのは、内閣府より出されている「第二期市町村子ども・子育て支援事業計画等における量の見込みの算出等の考え方」におきまして、箇所数での記載とされているため。事業実績については、子ども・子育て会議の中で毎年報告します。</p>
<p>保育料無償化に伴い、「3～5歳時クラスのすべての子どもの保育料が無償になります」とうたわれており、市民の関心も高まっている中、1号の3歳児を希望するが、抽選に落ちて入園できない3歳児が一定数いると思われる。3年保育に希望するが入れなかった30年度、31年度の実数を教えていただきたい。</p> <p>また、今後、3歳児クラスの定員について変更の予定はあるかどうか？</p> <p>浦安が2年保育だった時代とは異なり、公立の幼稚園・認定こども園のすべてが3年保育になった今、また、3～5歳児のすべてのこどもが希望すれば入れる環境を作る事が浦安で安心して子育て出来る事に繋がると考えられるため、検討頂きたい。</p> <p>万が一、希望する方が入れない状況があるとしたら、具体的な対応策はあるか？</p> <p>(提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時保育・一時預かりなどを無償にする。 ・3歳児クラスのみのおこやか広場（以前のわくわく）を特定の園で実施する。 	<p>3年保育の入園待ち数については、平成30年度は120人。平成31年度が100人となっています。</p> <p>3年保育の拡充については、教育機会の均等を図るため、次年度に幼稚園・認定こども園の規模適正化方針の策定を予定しており、この方針の中で、3歳児クラス増設の課題を踏まえながら、望ましい園やクラスの規模などを検討することとしています。いただいたご提案については、この方針の策定の中での検討項目の一つとして整理します。</p>

<p>・遠くの園でも自転車での通園を可能にするなどし、空きのある園でも通園を可能にする。2号の方など実際に徒歩通園では利用が厳しい方もいるため、ソフト面でも通いやすくする配慮をする。</p>	
<p>こどもショートステイの実施について、場所や規模など教えて頂きたい。</p>	<p>こどもショートステイについては、保護者が病気、看護、出産、育児疲れなどで、一時的に子どもの養育が困難になったときに、施設において保育を実施するものです。</p> <p>実施場所につきましては、現在、市川市国府台で実施しています。来年度以降の予定にはなりますが、このこどもショートステイの実施場所を市内の東野一丁目地区で行う予定があり、その規模としては、現在の1日当たり1世帯の利用から、東野地区においては、最大で3名程度の利用が可能になる方向で進んでいます。</p>
<p>子育て相談室・子育て総合窓口での子育て相談は第5章にないがなぜか。</p>	<p>利用者支援事業は、子ども・子育て支援法の法定13事業の一つであることから、第4章の子ども・子育て支援事業関連事業中の事業として掲載している。</p>
<p>病児・病後児保育の内容を具体的に決まっている範囲で教えて頂きたい。(場所や定員数など)</p>	<p>ポピンズナーサリースクール新浦安、愛和元町保育園において、開所時間午前7時から午後7時、定員6名程度で実施している。</p>
<p>タブレットを使用した事業など、一部の小学校では行われているようだが、どのくらい浦安市内の小中学校では普及しているか？ 今後、普及していく予定はあるか？ (児童の理解度の向上と教師の負担軽減にもつながると思われる)</p>	<p>昨年度に推進校を指定して整備しています。整備状況については、ハード面において全小中学校で整備済。活用については、情報教育推進計画により、各学校で、ICT機器を使った事業の推進に取り組んでいるものです。</p>
<p>児相 243 件+こども家庭支援センター372 件=615 件で前年度より 144 件増えている。 平成 30 年度より虐待件数が急激に増加しており、今後も対応する件数が増えると考えられるが、多くの関係機関で見守るという視点から、相談機関や関係する団体など増やしたり見直したりする予定はあるか？(子育てケアマネジャーなど)是非、関係機関との密な連携を望みたい。 また、相談員の数は足りているか？</p>	<p>児童虐待の対応件数が年々増加しており、要対協による関係機関の連携強化を図るため、平成 31 年度に、「児童家庭センターこうのだい」と「中核地域生活支援センターがじゅまる」の 2 機関を加えました。今後についても、必要に応じて機関を増やす方向です。また、相談員については、児童虐待の急増に対応するため、7 月に非常勤 1 名、10 月から正規職員の社会福祉士 1 名を増員し対応しており、来年度も増員に向け人員要求をしています。</p>